



## 令和2年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

令和元年11月11日

上場会社名 中部水産株式会社 上場取引所 名  
 コード番号 8145 URL <https://www.nagoya-chusui.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 脇坂 剛  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 中川 正一 TEL 052-683-3001  
 四半期報告書提出予定日 令和元年11月11日 配当支払開始予定日 令和元年12月9日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 令和2年3月期第2四半期の業績（平成31年4月1日～令和元年9月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年3月期第2四半期	19,357	△0.7	94	141.0	166	52.9	109	44.1
31年3月期第2四半期	19,486	△2.9	39	△5.6	108	3.9	76	8.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2年3月期第2四半期	62.20	—
31年3月期第2四半期	42.70	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2年3月期第2四半期	15,066	12,553	83.3
31年3月期	15,450	12,811	82.9

(参考) 自己資本 2年3月期第2四半期 12,553百万円 31年3月期 12,811百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
31年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
2年3月期	—	40.00	—	—	—
2年3月期（予想）	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 令和2年3月期の業績予想（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,000	0.1	149	0.3	275	0.1	185	604.3	105.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2年3月期2Q	1,926,900株	31年3月期	1,926,900株
② 期末自己株式数	2年3月期2Q	165,572株	31年3月期	165,441株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2年3月期2Q	1,761,362株	31年3月期2Q	1,780,822株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第2四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、米中貿易戦争の影響を受け世界経済が緩やかな減速傾向にある中で、国内においても人件費や物流費の上昇などにより企業業績に減速感が強まるなど、依然として消費者の節約志向は根強く、先行きは不透明な状況で推移しております。

当業界におきましては、水産資源保護のための漁獲規制や自然環境の急激な変動で海水温が変化したことなどによる漁獲量の減少、日本食ブームなどもあって海外における水産物需要の増加による輸入水産物の減少、さらには市場外流通の増加など、厳しい経営環境となりました。

このような外部環境のもとで、当社は、限られた水産資源での販売競争に対応した調達力、営業力の強化を図るとともに、業務の効率化や諸経費の削減を推し進めるなど、業績の向上と企業体質の強化に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は、卸売部門が取扱数量は減少したものの、販売単価の上昇で増収となりましたが、飼料工場で養鰻飼料の輸出の減少や配合飼料向け魚粉の生産量が減少するなど、全体で19,357百万円(前年同四半期比0.7%減)となりました。経常利益は、利益率の改善による売上総利益の増加、一般管理費の減少などにより166百万円(前年同四半期比52.9%増)となり、四半期純利益は、109百万円(前年同四半期比44.1%増)となりました。

売上面に関しては、今後、自然の影響を受けやすい天然魚の漁獲量の減少に対して、出荷者との繋がりを深め、養殖魚や他魚種及び他海域からの集荷で対処する等、安定供給を図ります。利益面では、個々の取引条件の見直しや工場原価及び一般管理費の削減により利益率の改善を図ります。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

## (卸売部門)

鮮魚は、養殖ウナギが順調な入荷により販売数量を伸ばし、量販店向け加工用養殖本マグロの取扱増、養殖車エビが天然物の不漁で売上増となりましたが、養殖カンパチ、養殖真タイが餌の高騰で入荷減、サンマ、ヤリイカの不漁、養殖アトランティックサーモンが高値で取扱減、ホタテ貝柱の入荷減で減収となりました。

冷凍魚は、北海道産ボイルホタテが漁獲減少による単価高で販売数量が減少し、カレイ類、ウナギの取扱減で売上減となりましたが、タラバガニは価格高でも販売が伸長し、養殖バナメイエビが量販店向けに販売増、加工原料の紋甲イカの順調な入荷があり増収となりました。

加工食品は、時サケの漁獲減による販売数量の減少、チリメンが豊漁により単価安となり、小女子も入荷減少により売上減となりましたが、健康志向ブームによる納豆製品、ブランド色のある餃子、加工原料であるカラスカレイの販売が好調で増収となりました。

この結果、売上高は18,683百万円(前年同四半期比0.0%増)、営業利益は175百万円(前年同四半期比8.9%増)となりました。

## (飼料工場部門)

養鰻用飼料は、韓国向け輸出飼料の売上減、配合飼料向け魚粉が原料不足により生産量が減少したため、減収となりました。

この結果、売上高は358百万円(前年同四半期比24.0%減)、営業利益は9百万円(前年同四半期比21.0%増)となりました。

## (冷蔵工場部門)

コンビニ向けや給食関係の冷凍食品が順調な在庫で売上増となりましたが、コンテナ貨物の減少により、減収となりました。

この結果、売上高は240百万円(前年同四半期比11.4%減)、営業利益は34百万円(前年同四半期比58.9%増)となりました。

## (不動産賃貸部門)

主な事業である賃貸マンションが順調に稼働した結果、売上高は74百万円(前年同四半期比11.0%増)、営業利益は43百万円(前年同四半期比3.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の変動状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、15,066百万円となり、前事業年度末に比べ384百万円(2.5%)減少しました。これは主に、現金及び預金の増加288百万円、商品及び製品の増加273百万円などがありましたが、投資有価証券の減少833百万円、有価証券の減少200百万円などによるものであります。

負債は、2,512百万円となり、前事業年度末に比べ126百万円(4.8%)減少しました。これは主に、受託販売未払金の減少41百万円、退職給付引当金の減少11百万円などによるものであります。

純資産は、12,553百万円となり、前事業年度末に比べ257百万円(2.0%)減少しました。これは主に、その他有価証券評価差額金の減少296百万円などによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物は、財務活動の結果、配当金の支払額等により70百万円の減少となりましたが、営業活動の結果、売上債権の減少等により196百万円、投資活動の結果、投資有価証券の償還による収入等により261百万円それぞれ増加となったため、前事業年度末に比べ387百万円(10.3%)増加し、当第2四半期会計期間末には4,144百万円となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期累計期間におきまして、令和元年5月13日に公表いたしました業績予想との間に差異が生じました。詳細につきましては、本日公表の「業績予想値と実数値の差異に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和元年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,993,632	2,282,063
受取手形及び売掛金	2,073,751	1,896,484
有価証券	2,200,498	2,000,000
商品及び製品	1,560,672	1,834,552
仕掛品	49,982	46,034
原材料及び貯蔵品	394,016	399,171
その他	47,968	18,298
貸倒引当金	△13,336	△11,439
流動資産合計	8,307,186	8,465,165
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	763,617	797,354
その他(純額)	798,562	1,058,464
有形固定資産合計	1,562,179	1,855,819
無形固定資産	14,379	14,975
投資その他の資産		
投資有価証券	5,460,194	4,626,260
その他	119,839	116,558
貸倒引当金	△13,568	△12,609
投資その他の資産合計	5,566,465	4,730,209
固定資産合計	7,143,025	6,601,004
資産合計	15,450,211	15,066,169
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,430,074	1,556,701
受託販売未払金	150,602	109,256
未払法人税等	44,972	46,689
賞与引当金	47,940	45,000
資産除去債務	5,324	—
その他	249,235	147,657
流動負債合計	1,928,150	1,905,304
固定負債		
退職給付引当金	377,597	365,635
その他	333,311	241,685
固定負債合計	710,908	607,321
負債合計	2,639,058	2,512,625

(単位:千円)

	前事業年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和元年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,450,000	1,450,000
資本剰余金	1,045,772	1,045,772
利益剰余金	10,025,189	10,064,292
自己株式	△641,390	△641,716
株主資本合計	11,879,571	11,918,348
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	931,581	635,195
評価・換算差額等合計	931,581	635,195
純資産合計	12,811,153	12,553,543
負債純資産合計	15,450,211	15,066,169

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年9月30日)
売上高	19,486,814	19,357,768
売上原価	18,655,009	18,492,682
売上総利益	831,805	865,085
販売費及び一般管理費	792,541	770,440
営業利益	39,263	94,644
営業外収益		
受取利息	9,445	8,899
受取配当金	36,005	38,194
受取手数料	15,656	15,313
その他	8,425	10,227
営業外収益合計	69,533	72,634
営業外費用		
雑損失	80	1,069
営業外費用合計	80	1,069
経常利益	108,716	166,209
特別損失		
投資有価証券評価損	—	7,728
特別損失合計	—	7,728
税引前四半期純利益	108,716	158,481
法人税、住民税及び事業税	26,940	42,404
法人税等調整額	5,725	6,515
法人税等合計	32,666	48,920
四半期純利益	76,049	109,561



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	108,716	158,481
減価償却費	53,690	49,067
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△10,556	△2,855
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△3,190	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,680	△2,940
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△3,253	△11,961
受取利息及び受取配当金	△45,451	△47,093
投資有価証券評価損益(△は益)	—	7,728
売上債権の増減額(△は増加)	22,612	181,262
たな卸資産の増減額(△は増加)	△349,559	△275,087
仕入債務の増減額(△は減少)	137,962	85,280
未払金の増減額(△は減少)	201,099	△18,152
未払費用の増減額(△は減少)	5,385	6,253
未払消費税等の増減額(△は減少)	△81,966	5,261
その他	31,718	61,896
小計	65,525	197,139
利息及び配当金の受取額	48,044	52,107
法人税等の支払額	△34,583	△52,514
営業活動によるキャッシュ・フロー	78,986	196,731
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の償還による収入	400,000	300,000
定期預金の預入による支出	△24,500	△22,700
定期預金の払戻による収入	127,000	21,700
有形固定資産の取得による支出	△7,288	△343,327
有形固定資産の除却による支出	—	△5,324
投資有価証券の取得による支出	△807,896	△301,758
投資有価証券の売却による収入	—	2,770
投資有価証券の償還による収入	—	600,000
その他	—	10,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△312,684	261,359
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△39	△326
配当金の支払額	△71,219	△70,396
財務活動によるキャッシュ・フロー	△71,259	△70,722
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△304,957	387,369
現金及び現金同等物の期首残高	4,510,224	3,756,869
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,205,267	4,144,238

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売部門	飼料工場 部門	冷蔵工場 部門	不動産賃貸 部門			
売上高							
外部顧客への 売上高	18,676,479	471,583	271,702	67,049	19,486,814	—	19,486,814
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	5,280	—	59,267	—	64,548	△64,548	—
計	18,681,759	471,583	330,970	67,049	19,551,362	△64,548	19,486,814
セグメント利益	161,261	7,832	21,911	41,873	232,879	△193,615	39,263

(注) 1 セグメント利益の調整額△193,615千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自平成31年4月1日至令和元年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売部門	飼料工場 部門	冷蔵工場 部門	不動産賃貸 部門			
売上高							
外部顧客への 売上高	18,683,972	358,617	240,730	74,446	19,357,768	—	19,357,768
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	4,033	—	60,341	—	64,374	△64,374	—
計	18,688,006	358,617	301,072	74,446	19,422,142	△64,374	19,357,768
セグメント利益	175,630	9,479	34,819	43,194	263,123	△168,479	94,644

(注) 1 セグメント利益の調整額△168,479千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。